

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770800146		
法人名	株式会社 せとうち福祉サービス		
事業所名	グループホームせとうち		
所在地	香川県三豊市三野町吉津甲605番地2		
自己評価作成日	令和2年1月8日	評価結果市町受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の進行を遅延し、ADLの維持が出来るよう支援している ・家庭の延長で環境づくりをしながら 信頼関係を築いている ・家族様との連携が取れている ・現在外出自粛にて施設内で楽しんで頂けるイベントを毎月実施している ・医療連携により24時間体制で安心してして支援する事が出来ている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	令和3年2月17日

<p>コロナ禍の現在、少しでも事業所内で季節を感じてもらうように趣向を凝らした行事を行っている。「できることは自分で」「笑顔」「外出」などを理念に掲げ、日々実践している。地域との交流も盛んで、踊りやフラダンス、カラオケなど、頻回に地域ボランティアが来訪してくれている。また、地域の清掃作業に参加したり、事業所全体で行う防災訓練に地域の方が参加してくれる。食事は法人内の関連会社で調理したものが届くようになっており、食後の片付けや洗い物など、利用者に手伝ってもらっている。また、トマトやきゅうりなど、畑で収穫したものが食卓に上がることもある。おやつ作りにスイートポテトを作ったりと食の楽しみを作っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき実践できるようにしている	職員及び利用者双方の理念を唱和して、意識付けを図っている。できることは自分で、「笑顔」が出るように声をかけたり、季節の移り変わりを感じてもらうために外に出かけるなど、日々理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	我が社が主催の慰問コンサートやボランティア行事に参加して、ボランティアの方と交流している。令和2年度は新型コロナウイルス予防の為、ボランティア行事等、外部からの出入りを控えている。	現在はコロナ禍で難しいが、通常は、踊りやフラダンス、カラオケ、手品など、頻回に地域ボランティアが来訪してくれている。また、近所のスーパーに買い物に行くなど、日常的に交流している。地域の清掃作業にも参加している。	目標にしている保育園との交流を実現すべく、具体的な取り組みが進むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を患っているご家族様からの相談は出来る限り応じている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、家族代表、地域住民代表、民生委員、行政職員が参加して開催している。行事等の運営や入居者の状況を報告すると共に身体拘束防止の取り組みなどについて報告し、参加者からの意見や要望をサービスの向上に活かしている。	現在は書面開催となっている。通常は、民生委員、地域住民代表、家族代表、行政職員等が参加して開催している。会議では、入居者の状況や身体拘束防止の取り組みなどを報告するとともに意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方が出席して下さり、現状報告しアドバイス等、頂く事が出来ている。	運営推進会議に市の担当者が出席しており、その際に事業所の実情を把握してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の防止についてマニュアルを作成している。身体拘束排除委員会を設置し、入居者の安全の確保の為等、やむを得ず身体拘束を行う場合は家族の同意を得て行っている。	身体拘束のマニュアルを作成している。また、2か月に1回、身体拘束の勉強会を開催し、理解を深めている。申し送りなどで、できるだけ身体拘束をせずに、かつ安全に生活してもらう方針で話し合っている。	引き続き、身体拘束について勉強会などを通して、拘束のないケアを続けるべく、理解や意識共有することを期待したい。

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで勉強を行っている。言葉使いなど、強制的になっていないか職員間で話し合い常に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行っている。必要性のある方には、職員全員で情報提供できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族様にご理解いただけるよう説明し、納得して頂いた上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族様には、来所時に意見を伺い、要望がある時は、必ず運営推進会議で報告し、対応している。	主には面会時などに意見を聞いている。また、運営推進会議にも家族に参加してもらうなど、外部者へ表せる機会を作っている。家族との信頼関係を大切に、1～2か月ごとに利用者の近況や写真を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで職員から意見や要望を聞く機会を設けている。	利用者の日々の対応については申し送り時に意見交換している。また、月に1回のミーティングでは困難事例などを話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内には資格取得、研修受講について、補助制度がある。社員重視制度により、70歳までの雇用、パワハラ セクハラ相談窓口の設置を始め、8項目の働きやすい職場制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社員研修などは、年間計画により実行される。職場親睦会の補助制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三豊市介護サービス事業所協議会の活動により研修会、相互活動が行われている。三豊市が行う介護医療勉強会への参加が出来る。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ずご本人の思いを伺っている。関係者から情報を提供して頂き、ご本人の不安が軽減できるように支援している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人に対する家族様の意向や要望を伺い、不安が軽減できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問を実施している。どのような支援を希望しているかをプランに反映している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しや洗濯畳み・お膳拭きやモップ掛け等の作業を職員と一緒にして頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	精神の安定を図るため、家族様の協力をお願いし、共に支えている。毎日不潔行為をする方がどうすれば不潔行為がなくなるかを考え、施設で試作したものを試した所、不潔行為がなくなり、家族様に相談すると直ぐに手作りですて下さった。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力により、毎年お盆の墓参りや外食等 関係が途切れないよう支援しているが、現在はコロナ感染拡大予防の為、出来ていない。	墓参りや外食など、家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所との関係継続の支援を行っている(現在はコロナ禍で控えている)。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気があう、合わないを把握し、席の配置を考えたり、楽しく会話されている時は、見守りトラブルになりそうな時は間に入るり、互いに気分を害さないよう 声かけ見守りをしている。	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係を大切にしながら、相談などを受け入れられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が、入居者一人ひとりの思いや状態を把握し、認知症の進行により、問題があれば、ミーティングや申し送りなどで話し合い、その人に合った支援をしている。	ケアプラン見直しの際に、本人及び家族の希望を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴などを把握し、日々楽しく安心して暮らせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で一人ひとりの情報を共有し、毎朝のバイタルチェックや排便、一日の水分量などを把握し、状態変化を早期発見出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は6か月ごとに見直しをしている。必ずご意見をお伺いし介護計画に反映している。入居者の状態変化により必要がある場合随時見直しを行っている。介護計画の見直しは毎月モニタリングを参考とし職員全員で確認し意見を出し合い現状に即した計画を作成している。	計画の見直しの際には必ず、本人及び家族の意向を確認している。職員の意見については、担当者が毎月モニタリングを行っており、それを計画に反映させている。また、全職員にも計画をチェックしてもらい、現状に即した内容になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録や申し送りなどで職員間での情報の提供を行い、意見を出し合い支援方法を検討し実践して介護計画の見直しに活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医の受診介助や外出等必要に応じて職員の人員配置を多くとるよう対応している。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問、専門医の受診等支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前に希望する病院をお聞きしている。専門医の受診時ご家族様がお連れする時は現状報告書を作成しDrに渡し頂く。職員が付き添う場合は家族様と一緒に来院しDrに現状報告している。家族様の都合で付き添いできない場合は職員が付き添い介助を行い、家族様に結果報告している。	入居時に希望する病院を聞いている。事業所の主治医は月2回、往診に来るが、それ以外の専門医に受診する場合は、現状報告書を作成し、家族に受診を依頼している。また、家族の状況により、職員が受診の付き添いを行うなど、柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化がある時は必ず主治医、看護師に報告、指導に従い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院が必要になった場合必ず介護要約を提供している。また、入院中にも病院関係者に退院に向けての受け入れに必要な情報等の指導を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方は入居時に家族様に説明している。入居者の状況が変化した場合、家族様と話し合い家族様の意向を確認している。	入居時に事業所に対応できる範囲を説明し、理解を得ている。また、状態の変化に応じて、家族と話し合い、方針を共有している。基本的に看取りは行わない方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどで急変や事故発生時の対応について研修を行い、慌てず適切な行動がとれるよう各自イメージトレーニングを行っている。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施している。災害時の避難場所や誘導方法について訓練を行ったり、年二回全事業所の防災訓練を実施している。	毎月、火災や地震を想定して訓練を行っている。訓練を通して、一人ひとりの対応方法について検証し、注意が必要な方は文書にして残すなど、工夫している。また、年に2回は全事業所で訓練を行っており、地域のボランティアも参加している。水害を想定し、隣接事業所の2階に避難している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーに配慮し尊厳を守る為に言葉かけや対応に気をつけ、職員同士がチェックし合い、全員が周知できるように連絡ノートで情報を共有できるようにしている。	少しの声かけの違いで、利用者の反応が変わることがあり、そのことを連絡ノートを活用し職員間で共有している。着替えなども同性介助に配慮しつつ、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いすることなく、意思表示が難しく自己決定が困難な方には表情や行動など観察し最終的な決定はご本人が行えるよう声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症状が進行されている方が多く、希望が把握できなくなっているが、無理強いせず、レク、作業、行事などに参加出来るように様々な物を提案し表情を観察しながらご本人のペースに合わせて一日が過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着たいものを選択できるように支援している。毎年お正月には着物の着付けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食のみ職員が献立を作成し、調理を行っている。昼食、夕食は関連会社で調理して、盛り付けやペーストなど入居者に合わせた加工は施設で行っている。個々の能力に応じた作業に参加出来るよう支援している。	献立は朝食のみ職員が作成している。昼食及び夕食は法人内の関連会社で調理したものが届くようになっている。食後の片付けや洗い物など、利用者に手伝ってもらっている。また、トマトやきゅうり、じゃがいもなど、事業所の畑で収穫したものが食卓に上がることもある。おやつ作りもスイートポテトを作ったりと趣向を凝らしている。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じ、食事形態を変える等行っている。また水分量は個々の体重、年齢で一日のトータル量を計算し、確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施する時声かけ誘導をさせて頂き支援している。またご自分で出来ない方は職員が介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握、記載し時間を見ながらトイレ誘導を行ったり、認知症が進行している方の行動をみてトイレ誘導を行っている。作業後や食事前後も声かけし定期的に排泄誘導を行い、習慣づけれるよう支援している。	一人ひとりの排泄のサインを理解、共有して声かけしている。また、定時ごとに声かけし、トイレで排泄してもらうことで、失敗やおむつの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日一人ひとりの排便状況を把握し適切な水分摂取が出来ているか確認し、便薬の調整と体操や散歩などで身体を動かし、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回の入浴を決めさせて頂いているが、入居者の状況により変動はある。入浴拒否をされた場合時間を置いて声かけを行ったり、日を変えたりして入浴できるよう支援している。	週に2～3回、入浴できるよう支援している。順番は決めているが、その日の気分や体調などに応じて、順番を変えたり、日を変えたりするなど、柔軟に対応している。過去に毎日、入浴する方もおり、希望にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足の浮腫み予防の為昼食後居室で休まれるよう声かけし意思疎通を図れない方は職員の見守りのもと穏やかに休息が出来るようにしている。夜間も個人の状況に応じて気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	嚥下状態が悪化された方には薬剤師の先生に相談し、粉碎にしたり、溶かしたりしてトロミを付けて服用して頂いている。薬の詳細ファイルがあり、職員は薬の目的や副作用等把握できるようにしている。誤薬を防ぐため、朝・昼・夕と一人ひとりの薬袋に分け、名前の確認飲み込みが出来たかの確認を行っている。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの状態に応じて作業を提供させて頂いたり、職員と一緒に作業をしたり、散歩に出たりして、気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症が重度になっており、本人の希望がなく、天候の良い日は敷地内の散歩や、参加出来る方は畑作業をしている。外出自粛している為、施設内でお花見やぶどう狩り等、季節の行事を行い、毎月イベントを実施している。	敷地内の散歩や畑作業などで外気に触れている。例年は、季節の花や海を見にドライブに行っている。コロナ禍の現在は、事業所内で花見やブドウ狩りなどの行事を企画し、季節を感じてもらえるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症が重度化しており、連絡の希望はないが家族様から電話があった場合、取り次いでいる。会話にはならないが、声が聞けただけで家族様が安心できている。現在、オンライン面会を実施しているので、遠方の方でも会話は出来ないが、顔が見られる為、喜んで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、入居者と職員で大きなカレンダーを作成している。季節感を感じて頂けるよう、壁飾りを貼っている。	利用者と職員で作製した大きなカレンダーを作成して、掲示している。桜やこいのぼり、あじさいなどが描かれており、季節感や生活感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で席の配置を工夫し、話をされたり、皆が好むテレビ番組を録画して、流していると集まって楽しんで見られたり、思いのまま自由な時間を過ごして頂いている。		

54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居される時、家族様と相談し、日頃入居者のお気に入りだった物を持参して頂き、居室に置き、居心地よく過ごせるように支援している。</p>	<p>家で使っていたテレビや椅子、編み物など、馴染みのものを持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるよう、入居時に家族に話している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや洗面所等には、分かりやすいように表示し、居室には目印や名前が分かるようにして、不安なく行動に移せるよう工夫しているが、現在、三分の二の方が職員の誘導が必要になっておられる。</p>	/	/